

農林水産大臣賞（被害防止部門（団体））

NPOの参画など多様な主体が連携の下、被害対策に係る行政と住民の役割が明確化され、様々な取組みにより地域住民の意識を醸成。ICTを活用した計画的かつ効果的な捕獲等を実現。

さ さ や ま し

篠山市有害鳥獣対策推進協議会

（代表者：西潟 弘）

主な取組

兵庫県篠山市

鳥獣被害対策として、平成20年に協議会が設立、また協議会を支援する部隊として、県や農協に加え、大学等の専門家からなる被害対策支援チームが発足。

特にサル対策として、実施隊が県二ホンザル管理計画（特定計画）を基に、ICT大型捕獲檻等を用いた計画的かつ効果的な捕獲を行い、適切な個体数管理を実現。更に平成29年に近隣5市町による広域協議会も発足。

行政は専門家を交えた対策ミーティングを実施し、住民主体の対策を推進するための支援策として、電子メールでサルの位置情報や目撃情報を提供。協議会は、追い払いや柵の維持管理、生息環境管理等を内容とする出前講座や研修会等を定期的に開催。

また、協議会メンバーのNPO法人「里地里山問題研究所」の黒豆オーナー制度に登録された都市住民も侵入防止柵の見廻り点検活動に参加するなど、都市との「交流」や「収益」をもたらす活動を通じて地域住民の意識を醸成。

【サル捕獲数 平成25年度:6頭→28年度:49頭 うちICT大型檻捕獲36頭】

【市の農作物被害額 平成22年度:約2,270万円うちサル被害額約560万円

→28年度:約1,760万円うちサル被害額約230万円】